

会議録

会議名	小金井市図書館協議会 第1回		
事務局	図書館		
開催日時	平成20年4月24日(木)18時00分～20時00分		
開催場所	小金井市立図書館 本館 地下集会室		
出席者	委員	浦野 知美 兼森 順子 川口 真理子 君川 恵子 野垣 成恵 矢崎 省三 山口 源治郎	
	欠席者	荒井 容子 松尾 昇治	
	事務局	向井教育長 渡辺生涯学習部長 田中図書館長 樺沢奉仕係長 上石主査 藤木主事 川口主事	
傍聴者の可否	可	傍聴者数	2人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	1 議題 (1) 図書館協議会委員(補充委員)委嘱 (2) 図書館運営体制の見直しについて(諮問) (3) その他 2 報告事項 (1) 平成20年第1回市議会定例会の報告について (2) その他		

会議結果	
提出資料	<ul style="list-style-type: none">(1) 図書館運営体制の見直しについて(資料・事前配布)(2) 図書館運営体制の見直しについて(諮問書)(3) 第10期図書館協議会委員名簿
その他	

審議経過(主な発言要旨等)

田中館長	<p>皆さんこんにちは。図書館長の田中です。</p> <p>本日はお忙しい中、平成20年度第1回図書館協議会にご出席いただきましてありがとうございます。</p> <p>議事に入る前に事務局より校長推薦の松尾委員が公務の都合により辞職されたので報告します。</p> <p>後任の委員については小金井第4小学校の渡辺校長が推薦されているので、教育委員会承認後委嘱いたしますのでよろしくお願ひします。</p> <p>次に、図書館協議会委員に1人欠員がありましたが公募により川口真理子さんが選任されましたので教育長より委嘱状の交付をさせていただきます。</p> <p>(委嘱状交付・挨拶)</p>
田中館長 向井教育長	<p>続きまして教育長から挨拶をさせていただきます。</p> <p>教育長の向井です。今年度、生涯学習部長に異動がありまして渡辺となりましたのでよろしくお願ひします。</p> <p>今年度の図書館協議会ですが、例年の3回から5回に増やしました。理由として今後の図書館運営について諮問させていただいくためです。今後的小金井市立図書館のためにご協力よろしくお願ひします。</p> <p>それでは渡辺生涯学習部長お願ひします。</p>
田中館長 渡辺部長	<p>情報システム課より異動で参りました生涯学習部長の渡辺です。私は市役所入所当時の配属先が図書館で本館建設に携わりました。そのため図書館へは想いがあります。数々の調査でも図書館は市民要望が非常に高いです。私も微力ながら図書館行政の発展に尽くしたいと思いますのでよろしくお願ひします。</p> <p>ありがとうございました。なお、教育長につきましては次の公務がありますのでここで退席させていただきます。</p> <p>それでは矢崎会長お願ひします。</p>
田中館長 矢崎会長	<p>では議題(2)図書館運営体制の見直しについて(諮問)について事務局お願ひします。</p> <p>(図書館運営体制の見直しについての資料説明)</p>
矢崎会長 田中館長 矢崎会長	<p>小金井市の意向はどのような運営体制ですか。</p> <p>市の意向としては一部委託をして開館日数、時間等のサービス拡大をしたいと考えています。</p> <p>分館は23年度に職員が0人になっていますが。</p>

田中館長	一部委託というかたちで館長は本館と兼務する体制です。他市の導入事例では小さな所は職員がいない例は多いです。
野垣委員	スケジュールだと平成 21 年の 7 月に答申を出して、平成 22 年度から開始となって日程が短いが、答申とは別に準備が進められてしまうのではないか。他の審議会でも答申を尊重しない事例がありますが。
田中館長	<p>市として答申は最大限尊重するつもりです。諮問と異なる答申が出た際には、市も委託事業を進めるのが難しくなるので、諮問に沿った答申を出して頂けたらと考えています。答申は図書館長宛てとなつていますが、議会でも十分尊重したいと答弁しております。</p> <p>また、他の準備と言いましても見積を取る程度のことしかできません。そして、市のスケジュールとしては順調に話が進めば平成 21 年 9 月に補正予算を組み、平成 22 年度の予算要求をして 11 月にプロポーザルを実施し、1 月に業者選定をしたいと考えております。ちなみに、答申は 7 月より前に出していただいても構いません。</p>
矢崎会長	市の意向に沿った答申を出すという前提ではなく、図書館協議会は図書館協議会としての意見を出したいと思います。また、審議不十分で不満足な結果にならないように配慮をお願いします。
山口委員	まず結論ありきで諮問としてどうなのかと疑問に感じます。
田中館長	諮問内容はあくまで諮問文書のとおりで、図書館協議会としての答申を出しやすいように参考までに市の現在の意向を出したと考えてください。
山口委員	答申提出まで 1 年間あり、会議が 7 回もあるので審議時間としては十分だと思うが、有意義に議論するためにしっかり計画、テーマを立てた方がいいと思います。そのためにも、予算に限りがあると思うが、他市見学や話を聞く勉強する機会を設けて欲しい。
矢崎会長	直営でサービスの充実している調布や日本図書館協会また業者の聞いてみたい。
野垣委員	直営であってもサービスに違いがあるがそれはなぜかが知りたいのでその資料が欲しい。
田中館長	調布は開館時間拡大を条件に新館建設をしたと聞いています。各市問い合わせはしましたが、各市事情が異なりまた複雑で一概に比較するのは難しいと思います。小金井ではブックポストが非常に多くその返却処理のため現在開館時間を早めることができないという事情があります。
山口委員	委託問題の要となるのは職員体制だと思います。他市がどのような職員体制でやっているのかが知りたい。委託の意図としては安い労賃で運営できるからだと思います。しかし、受託会社も時給は 850 円や 900 円と安いが事務費として相応の額を取るので、委託した際に安くなるのかは議論があります。そのためにも、比較して我々が

	納得できるような資料が欲しい。
田中館長	ご指摘の通りですので、資料としては業者の出した見積及びカウンターシフト表を出したいと思います。委託費についてはその配置人数による積上げであり、配置人数は業者によって考え方様々です。時給については10社の資料がありますが800円～900円で似通っています。
浦野委員	参考に、提案しているサービスの拡大を直営で行なった際の資料もお願いします。
田中館長	現在、サービス拡大をする際は、財源については内部で生み出すしかなく、すると人件費を削減することになります。その算出方法ですが、正規職員を減らして非常勤職員を増やす方法で出させていただきます。
野垣委員	加えて、正規職員を現行のままで非常勤職員を増やした場合の数字もお願いします。
矢崎会長	また、利用者として直接のサービスの違いは接客なり、レファレンスも重要だと思います。抽象的ですが委託になった際のそれを比較できる資料があればと思います。
田中館長	抽象的な質問事項だと集めるのに苦労してしまうので、次回専門家の講演の際に資料の集め方についても伺うことにしては。では、サービスについては保留として、資料としては、他市のサービス、人員体制の違い及びその理由、23区の委託費を比較できる資料、正規職員を減らして非常勤職員を増やした場合の金額、正規職員を現行のままで非常勤職員を増やした場合の数字を用意します。
兼森委員	サービスの捉え方について市民と財政当局との考え方には違いがあるように思います。市民は、開館時間、人件費のみではなく、接客、蔵書、構成等の質も望んでいると思います。
田中館長	市民や議会等から図書館への要望を集計していますが、圧倒的に多いのが開館時間の延長です。
兼森委員	社会教育施設の代表である図書館が、専門性をなくして、質を犠牲にしても良いという考え方をもつていて将来の展望に危惧をしています。
田中館長	確かに、司書の資格が軽んじられているように思います。しかし、図書館運営の観点から、貸返業務を司書が行なう必要はそこまでなく、司書資格は別の形で活用したほうがいいのではないかと考えています。窓口業務については専門業者にお願いして、その他の業務に特化して小金井市立図書館を発展させていければと思います。
兼森委員	前回の答申で正規職員を減らして浮いた分のお金はどれくらい図書館に活かされましたか。前回の説明としては、図書館に浮いた分のお金は活かしますとのことでしたが、本当なのか疑問が残ります。

田中館長	トイレ改修や別館がその成果といえますが具体的に数字を出すのは難しいです。また、今回浮いた分については老朽化している部分の修繕に充てたいと考えています。ただ、財政課で調整することになりますが、全額図書館にとはなりづらいと思います。
矢崎会長	23年には6名とのことだが、これは退職の当てがあるとか、配置転換ですか
田中館長	20、21、22年と退職者がるので提案もこの時期にしています。ただ、配置転換も可能性はあります。
矢崎会長	この諮問を見て諸手を上げて賛成ということにはなりにくく、協議会が将来の小金井市立図書館に責任を持つことになるので慎重に進めなければならないと思います。
田中館長	では、次回は専門家を呼んで話をしていただくようにしたいと思います。
浦野委員	日本図書館協会の資料1のP3にサービス拡大として開館日や開館時間を拡大すること等をその理由としてあげている場合があるが、それは直営でも可能なことであり、合理的な根拠とは言えない、とあるのでその点について聞きたいと思います。
山口委員	日本図書館協会では最近、民間活力導入に当たっての検討の視点のようなガイドラインをつくっているのでお話を聞けたらと思います。
田中館長	ではテーマとしては、この内容に沿ったものにしていただきます。
矢崎会長	では次の報告事項に入ります。
田中館長	では平成20年第1回定例会の報告をします。質疑の内容として渡辺議員より図書館の高コスト化体質の改善法、議論に際して図書館協議会ではなく図書館のあり方懇談会を設けないか、図書購入について価格の廉価な古書店を利用しないか、矢祭図書館のように寄贈本を積極的に受入しないか、というのがありました。答弁として、時代の流れもあり一定の考えを持っている、部局で調整して来年度図書館協議会を3回から5回に増やしたので意見を伺いながら進めたいとしました。古書店のけんですが、登録業者で購入可能であれば対象として考えたい。寄贈本受入ですが本市の場合は現状溢れているので難しいとしました。
	次に宮下議員からですが、京王線沿線の広域図書館協力事業が始まったが近隣図書館との相互利用を進めないかとの質問がありました。これについては図書館長協議会や近隣市には電話で依頼しましたが職員の負担増等を理由に図書館長レベルでは判断しにくいとの回答で、今後とも引き続きお願ひしていくと答弁しました。
	森戸委員からはデイジー図書を発達障害のある人にも提供しないか、発達障害について図書館協議会で議論しないか、テープの提供もしないか、デイジー機器も必要でないか、デイジー図書の周知につ

	<p>いてどうか、とのことでした。デイジー図書は視覚障害者向けに提供を開始したもので 19 年度に一定の機器を配備し初心者講座を開催しています。視覚障害者を対象としているので発達障害の方には今後の定着状況を見ながら考えていきたい。協議会ではこれについて議論はしていません。テープの提供は今後も行なっていくが将来的にはデイジー図書に移っていきます。機器の使い方についても図書館で講習会等行なっていきたい。周知については市報、掲示板でしていますとしました。以上です。</p>
山口委員	渡辺委員の図書館協議会とは別の場を用意しないかとの質問の内容は。
田中館長	図書館協議会では指定管理とかの議論は通りにくいので別の場で議論しないかとの主旨だと思います。
矢崎会長	それは図書館協議会としては図書館協議会を軽視するような意見なので抗議したいですね。
兼森委員	市制 50 周年事業での活動の報告をお願いします。
田中館長	図書館が主体としては毎年定点撮影を行なっていますのでその変遷をパネル展示したいと思います。もう 1 つが市民の中から委員会を立ち上げてもらって、図書館が協働して子供向けに「集まれ、わくわくおはなしワールド」と題して 9~10 月に渡って市内全域で繰り広げられるイベントを行ないます。兼森委員には実行委員長としてご協力いただいている。前回の協議会委員の小川先生が副実行委員長としてお願いしています。
兼森委員	図書館としては三田村さんと藤木さんに担当していただいていますが、市民、図書館、学校、PTA 等立場の違う者が協力して子どもの読書活動推進のために努力していきたいと思います。限られた市の財政の中では、頼ってばかりでは立ち行かなくなるので市民が時間と能力と知恵を出していけば大きな効果を生むと信じています。今までには市民だけ、行政だけというのではありませんが、その枠を越えてという提案が図書館からあったことは嬉しいことだと思います。これに終わらず今後の市民活力の発展にも繋げていきたいと思いますのでご協力よろしくお願いします。
山口委員	近隣図書館との連携に関して、東京農工大学では既に行なっていますが、学芸大学においても近隣公共図書館と協力していきたいと考えております。今年度中準備して市民に対して貸出を含め公開をする予定です。大学図書館との協力に関してご要望があれば中継ぎをしますのでよろしくお願いします。
矢崎会長	以上で平成 20 年度第 1 回図書館協議会を終わりにします。